

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	東北文教大学短期大学部
設置者名	学校法人富澤学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
	総合文化学科	夜・通信			23	23	7	
	子ども学科	夜・通信			40	40	7	
	人間福祉学科	夜・通信			66	66	7	
		夜・通信						
		夜・通信						
<p>(備考)</p> <p>総合文化学科は、上級ビジネス実務士を含め6種類の資格が取得可能なカリキュラムを構成しており、総単位数は194単位である。子ども学科は、幼稚園教諭2種免許状・保育士資格を取得できるカリキュラムを構成しており、総単位数は116単位である。また、人間福祉学科は、介護福祉士国家試験受験資格を取得できるカリキュラムを構成しており、総単位数は145単位である。</p> <p>各学科の人材養成の目的上、実務経験のある教員による授業科目を多く開設している。特に子ども学科と人間福祉学科は、資格の性質上、実習関係の科目が多い。</p>								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

ホームページに公表している。(http://www.t-bunkyo.jp/syllabus/jc/)

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	東北文教大学短期大学部
設置者名	学校法人富澤学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

富澤学園ホームページにて公開している (トップページ>>情報公開>>学校法人富澤学園役員名簿(令和2年4月1日現在)) http://tomizawa.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2020/04/91e47a0928bb5db380cf4649c059166c.pdf

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	地方銀行相談役	4年 (2017.6.1 ～2021.5.31)	財務担当
非常勤	元公立高等学校校長	4年 (2017.6.1 ～2021.5.31)	教務担当
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	東北文教大学短期大学部
設置者名	学校法人富澤学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>全学組織である教務委員会にシラバス検討・作成小委員会を設け、シラバス作成要領案を策定している。策定に当たっては、シラバスの各項目の検討や特に注意すべき留意点等について協議し、教務委員会に諮った上で作成要領を確定している。確定した作成要領は、次年度の開講科目一覧を提案する教授会において周知し、シラバス作成を開始する。また、教授会終了後にFSD研修を開催し、シラバス作成の変更点や作成上の特に注意すべき留意点等、作成要領について詳しく説明を行っている。非常勤講師については、個別に対応している。</p> <p>シラバスの記載項目は、「科目のねらい」「授業の概要」「達成目標・到達目標」「単位認定の要件」「単位の認定方法及び割合」「授業計画(項目、内容)」「時間外学修」「課題に対するフィードバック」「使用テキスト・教材」「参考文献」「連絡先」としている。</p> <p>授業担当者から提出されたシラバスについては、シラバス検討・作成小委員会と学務課職員が一体となり、記載内容が適正であるかをチェックしている。単なる編集上のチェックのみならず、学科のカリキュラムポリシーに基づいての確認も行い、内容等について、不足・不備等の修正が必要な場合には、委員より教員に連絡し、追加修正等を依頼している。</p> <p>シラバス作成終了後、教務委員会において、検討・作成小委員会より、内容チェック後の課題等の報告とシラバス作成全体の反省点等について報告を行い、次年度への改善に活かしている。</p> <p>完成したシラバスは、前期のオリエンテーション前までにホームページに公開し、オリエンテーション期間内での教務ガイダンスや学生の履修登録に支障のないようにしている。</p>	
授業計画書の公表方法	ホームページに公開している。(東北文教大学短期大学部シラバス授業計画と履修の手引)(http://www.t-bunkyo.jp/syllabus/jc/)
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	

<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>単位認定は授業時数3分の2以上出席が必要であることを履修規程に明示するとともに、学修成果の評価は、全授業科目のシラバスに「達成目標・到達目標」、「単位認定の要件」及び「単位認定の方法及び割合」を明示し、その記載に則り、100点満点法により厳格に実施している。</p> <p>学生には、前・後期毎の履修科目について、S(100点～90点)、A(89点～80点)、B(79点～70点)、C(69点～60点)、D(59点以下、不合格)の表記で通知するとともに、学修成果をGPAとして学生に通知し、学修の達成度を意識させている。学修意欲の向上については、全授業科目で出欠を確認し、3回以上欠席している授業科目については、学科の全教員が共有し、特に3回以上欠席している科目が多い学生については、担当が面談・指導する体制をとっている。</p>	
<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p>	
<p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・GPAの算出は、以下の方法で実施している。本学では、学修成果がより実感できるように、科目のGPの計算には、学修成果の評価に使用した100点満点法による得点をそのまま利用している。 <ul style="list-style-type: none"> $GPA = (\text{科目のGP} \times \text{科目の単位数}) \div \text{総登録科目単位数}$ $\text{科目のGP} = (\text{得点} - 55) \div 10$ ・GPAを適切に実施するため、GPAの算出には、履修取り消し・履修放棄・履修不履行の科目及び他大学等で取得した単位を含めないこと、不合格・出席不足の科目のGPは0点であること、再履修科目のGPは再履修後のGPを利用すること等を公表している。 	
<p>客観的な指標の算出方法の公表方法</p>	<p>「履修規程」「学生生活の手引き」「授業計画と履修の手引き『シラバス』」で公表しており、ホームページより確認することができる。(キャンパスライフ≫学生生活)</p> <p>(http://www.t-bunkyo.jp/campuslife/pdf/tebiki_jc.pdf)</p> <p>また、ホームページ「シラバス・授業の履修について」(シラバス≫授業の履修について) (http://www.t-bunkyo.jp/syllabus/jc/)でも公表している。</p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p>	

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

以下のような卒業の認定方針と卒業要件を公表している。

(公表内容)

総合文化学科

東北文教大学は、「敬・愛・信」の建学の精神に基づく教育を通して、人間性豊かな、社会に貢献できる実践的な人間の育成を目的としています。

短期大学部は、各学科が学修の成果として求める、知識・技能・態度を身につけ、地域、社会で実践することができる人材の育成を目的としています。

総合文化学科は、以下のことを身につけ、社会人としての基礎的能力を活かし、地域に貢献し、また、自らの人生を自律的に選択し、社会を生き抜いていくことのできる人材の育成を目的としています。

1. 多様な選択が可能である社会において、さまざまなことがらにその都度対応するために必要な汎用的能力、問題解決能力を身につけ、自分や地域・社会にとって働くこと、生きることがどのような意義を持ちうるのかを考えて人生設計をしていける。
2. 学問の方法を身につけ、人間や社会・地域について、歴史と文化を踏まえながら総合的に理解し、社会事象を説明することができる。
3. 実務遂行能力を身につけ、修得した知識やスキルを基盤として、コミュニケーション能力を高め、実社会に役立つ力として発揮することができる。
4. 学問の実践力を身につけ、社会や地域がかかえる課題について、歴史や文化、産業等に関連させながら分析・考察し課題解決への方向性を示すことができる。

以下に示す所定の単位数を含めた、卒業所要単位数を修得した人に卒業を認定し、短期大学士（総合文化学）の学位を授与します。

- 1 については、基礎科目の「アカデミックスキル」「基礎学力」「メディアリテラシー」「リサーチ入門」区分で定める単位数
- 2 については、コア科目の「ことばとコミュニケーション」「現代と情報メディア」「文化の多様性」の3系統と「関連」区分で定める単位数
- 3 については、基礎科目の「キャリア」区分で定める単位数
- 4 については、発展必修科目の「卒業研究」科目の単位数

子ども学科

東北文教大学は、「敬・愛・信」の建学の精神に基づく教育を通して、人間性豊かな、社会に貢献できる実践的な人間の育成を目的としています。

短期大学部は、各学科が学修の成果として求める、知識・技能・態度を身につけ、地域、社会で実践することができる人材の育成を目的としています。

子ども学科は、以下のことを身につけ、豊かな人間性と社会性を兼ね備えた、保育・教育における総合的実践力を有する人材の育成を目的としています。

- 1 保育・教育の本質を説明することができる。
- 2 5領域を理解し、総合的に保育を計画し実践することができる。
- 3 保育をするための方法や技術を身につけ、実践することができる。
- 4 保育者として相応しい言動をすることができる。
- 5 豊かな感性と情操を身につけ、保育者として子どもを共感的に受け止めることができる。
- 6 自分の意見を発表するとともに、他人の意見に傾聴・共感することができる。
- 7 社会人としての教養を身につけ、自ら問題を発見し解決に向けて探求することができる。

以下に示す所定の単位を含めた、卒業所要単位を修得した人に卒業を認定し、短期大学士（子ども学）の学位を授与します。

- 1 については、専門科目の「保育の本質・目的」の区分で定める単位数
- 2 については、専門科目の「保育の対象の理解」「保育の内容と方法」の区分で定め

る単位数

3 については、専門科目の「保育の内容と方法」と「保育展開のための知識・技術」の区分で定める単位数

4・5・6 については、専門科目で定める単位数

7 については、教養科目と卒業研究で定める単位数

人間福祉学科

東北文教大学は、「敬・愛・信」の建学の精神に基づく教育を通して、人間性豊かな、社会に貢献できる実践的な人間の育成を目的としています。

短期大学部は、各学科が学修の成果として求める、知識・技能・態度を身につけ、地域、社会で実践することができる人材の育成を目的としています。

人間福祉学科は、以下のことを身につけ、人権を尊重する基本姿勢と、深い人間愛、豊かな人間性を兼ね備えた、介護福祉における基礎的な実践力を有する人材の育成を目的としています。

1. 人間科学及び社会福祉に関する知識を理解したうえで、地域の諸問題に責任をもって関わるための思考力・判断力・表現力を身につけ、意見を交わすことができる。
2. 介護を必要とする人が、自分らしい生活を継続できるよう、基本的な生活支援技術を実践できる。
3. 人間の尊厳や人権を尊重する態度と倫理観を持ち、コミュニケーション力・協調性・積極性を身につけ、社会に貢献できる。

以下に示す所定の単位数を含めた、卒業所要単位を修得した人に卒業を認定し、短期大学士（人間福祉学）の学位を授与します。

1 については、人間福祉基盤教育科目における「基礎科目」「発展科目」区分で定める単位数

2 については、介護福祉専門教育科目における「介護」「こころとからだのしくみ」区分で定める単位数

3 については、介護福祉専門教育科目における「人間と社会」区分で定める単位数

卒業の認定に関する
方針の公表方法

大学案内（ホームページ「デジタルパンフレット」
(<http://www.t-bunkyo.jp/request/digital-pamphlet.html>))、学生便覧（ホームページ「キャンパスライフ」学生生活）(http://www.t-bunkyo.jp/campuslife/pdf/tebiki_jc.pdf)、ホームページ（大学紹介≫情報公開≫4. 上記以外の情報≫ディプロマ・ポリシー/カリキュラム・ポリシー/アドミッション・ポリシー）(<http://www.t-bunkyo.jp/aboutus/disclosure/>)

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	東北文教大学短期大学部
設置者名	学校法人富澤学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	富澤学園ホームページにおいて公開している。 (トップページ≫情報公開≫令和元年度計算書類) (http://tomizawa.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2020/05/29ed470e1f3b737fa9cc5082423d0ae0.pdf)
収支計算書又は損益計算書	富澤学園ホームページにおいて公開している。 (トップページ≫情報公開≫令和元年度計算書類) (http://tomizawa.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2020/05/29ed470e1f3b737fa9cc5082423d0ae0.pdf)
財産目録	富澤学園ホームページにおいて公開している。 (トップページ≫情報公開≫財産目録) (http://tomizawa.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2020/05/d6ed85b060d0efb7286805aed17b8771.pdf)
事業報告書	富澤学園ホームページにおいて公開している。 (トップページ≫情報公開≫令和元年度事業報告書) (http://tomizawa.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2020/06/dc543c160341b95e9c2672c48a40e0a1.pdf)
監事による監査報告(書)	富澤学園ホームページにおいて公開している。 (トップページ≫情報公開≫令和元年度監査報告書) (http://tomizawa.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2020/05/c61621cbba19c0f8e82147037eef2142.pdf)

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:令和2年度事業計画 対象年度:令和2年度)
公表方法:富澤学園ホームページにて公開している。 (トップページ≫情報公開≫学校法人富澤学園令和2年度事業計画書) (http://tomizawa.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2020/06/6e66ca6839a29dec74ecc18d5f761e52.pdf)
中長期計画(名称:学校法人富澤学園第2期中長期計画 対象年度:令和2~6年度)
公表方法:富澤学園ホームページにて公開している。 (トップページ≫情報公開≫学校法人富澤学園第2期中長期計画) (http://tomizawa.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2020/06/54974a08de5f6cb75a30285b2942b48c.pdf)

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法：ホームページにおいて公表している（大学紹介≫大学評価）
<http://www.t-bunkyo.jp/aboutus/evaluation.html>

(2) 認証評価の結果（任意記載事項）

公表方法：ホームページにおいて公表している（大学紹介≫大学評価）
<http://www.t-bunkyo.jp/aboutus/evaluation.html>

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名
教育研究上の目的（公表方法：学則（ホームページ「大学紹介」情報公開「学内諸規程」(http://www.t-bunkyo.jp/aboutus/disclosure/kitei.html)、学生便覧（ホームページ「キャンパスライフ」学生生活」(http://www.t-bunkyo.jp/campuslife/pdf/tebiki_jc.pdf))
（概要） 東北文教大学短期大学部は、教育基本法及び学校教育法に基づき、深く専門の学芸を教授研究し、職業または实际生活に必要な能力を育成するとともに、「敬・愛・信」の建学の精神にのっとり人間性豊かな、真に社会に貢献しうる実践的な人間の育成を目的とする。
卒業の認定に関する方針（公表方法：ホームページ（大学紹介」情報公開」4. 上記以外の情報」ディプロマ・ポリシー/カリキュラム・ポリシー/アドミッション・ポリシー）(http://www.t-bunkyo.jp/aboutus/disclosure/)、大学案内（ホームページ「デジタルパンフレット」(http://www.t-bunkyo.jp/request/digital-pamphlet.html)、学生便覧（ホームページ「キャンパスライフ」学生生活」(http://www.t-bunkyo.jp/campuslife/pdf/tebiki_jc.pdf))
（概要） 総合文化学科 東北文教大学は、「敬・愛・信」の建学の精神に基づく教育を通して、人間性豊かな、社会に貢献できる実践的な人間の育成を目的としています。 短期大学部は、各学科が学修の成果として求める、知識・技能・態度を身につけ、地域、社会で実践することができる人材の育成を目的としています。 総合文化学科は、以下のことを身につけ、社会人としての基礎的能力を活かし、地域に貢献し、また、自らの人生を自律的に選択し、社会を生き抜いていくことのできる人材の育成を目的としています。 1. 多様な選択が可能である社会において、さまざまなことがらにその都度対応するために必要な汎用的能力、問題解決能力を身につけ、自分や地域・社会にとって働くこと、生きることがどのような意義を持ちうるのかを考えて人生設計をしていける。 2. 学問の方法を身につけ、人間や社会・地域について、歴史と文化を踏まえながら総合的に理解し、社会事象を説明することができる。 3. 実務遂行能力を身につけ、修得した知識やスキルを基盤として、コミュニケーション能力を高め、実社会に役立つ力として発揮することができる。 4. 学問の実践力を身につけ、社会や地域がかかえる課題について、歴史や文化、産業等を関連させながら分析・考察し課題解決への方向性を示すことができる。 以下に示す所定の単位数を含めた、卒業所要単位数を修得した人に卒業を認定し、短期大学士（総合文化学）の学位を授与します。 1 については、基礎科目の「アカデミックスキル」「基礎学力」「メディアリテラシー」「リサーチ入門」区分で定める単位数 2 については、コア科目の「ことばとコミュニケーション」「現代と情報メディア」「文化の多様性」の3系統と「関連」区分で定める単位数 3 については、基礎科目の「キャリア」区分で定める単位数 4 については、発展必修科目の「卒業研究」科目の単位数
子ども学科 東北文教大学は、「敬・愛・信」の建学の精神に基づく教育を通して、人間性豊か

な、社会に貢献できる実践的な人間の育成を目的としています。

短期大学部は、各学科が学修の成果として求める、知識・技能・態度を身につけ、地域、社会で実践することができる人材の育成を目的としています。

子ども学科は、以下のことを身につけ、豊かな人間性と社会性を兼ね備えた、保育・教育における総合的実践力を有する人材の育成を目的としています。

- 1 保育・教育の本質を説明することができる。
- 2 5領域を理解し、総合的に保育を計画し実践することができる。
- 3 保育をするための方法や技術を身につけ、実践することができる。
- 4 保育者として相応しい言動をすることができる。
- 5 豊かな感性と情操を身につけ、保育者として子どもを共感的に受け止めることができる。
- 6 自分の意見を発表するとともに、他人の意見に傾聴・共感することができる。
- 7 社会人としての教養を身につけ、自ら問題を発見し解決に向けて探求することができる。

以下に示す所定の単位を含めた、卒業所要単位を修得した人に卒業を認定し、短期大学士（子ども学）の学位を授与します。

- 1 については、専門科目の「保育の本質・目的」の区分で定める単位数
- 2 については、専門科目の「保育の対象の理解」「保育の内容と方法」の区分で定める単位数
- 3 については、専門科目の「保育の内容と方法」と「保育展開のための知識・技術」の区分で定める単位数
- 4・5・6 については、専門科目で定める単位数
- 7 については、教養科目と卒業研究で定める単位数

人間福祉学科

東北文教大学は、「敬・愛・信」の建学の精神に基づく教育を通して、人間性豊かな、社会に貢献できる実践的な人間の育成を目的としています。

短期大学部は、各学科が学修の成果として求める、知識・技能・態度を身につけ、地域、社会で実践することができる人材の育成を目的としています。

人間福祉学科は、以下のことを身につけ、人権を尊重する基本姿勢と、深い人間愛、豊かな人間性を兼ね備えた、介護福祉における基礎的な実践力を有する人材の育成を目的としています。

1. 人間科学及び社会福祉に関する知識を理解したうえで、地域の諸問題に責任をもって関わるための思考力・判断力・表現力を身につけ、意見を交わすことができる。
2. 介護を必要とする人が、自分らしい生活を継続できるよう、基本的な生活支援技術を実践できる。
3. 人間の尊厳や人権を尊重する態度と倫理観を持ち、コミュニケーション力・協調性・積極性を身につけ、社会に貢献できる。

以下に示す所定の単位数を含めた、卒業所要単位を修得した人に卒業を認定し、短期大学士（人間福祉学）の学位を授与します。

- 1 については、人間福祉基盤教育科目における「基礎科目」「発展科目」区分で定める単位数
- 2 については、介護福祉専門教育科目における「介護」「こころとからだのしくみ」区分で定める単位数
- 3 については、介護福祉専門教育科目における「人間と社会」区分で定める単位数

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページ（大学紹介≫情報公開≫4. 上記以外の情報≫ディプロマ・ポリシー/カリキュラム・ポリシー/アドミッション・ポリシー（<http://www.t-bunkyo.jp/aboutus/disclosure/>）、大学案内（ホームページ「デジタルパンフレット」（<http://www.t-bunkyo.jp/request/digital-pamphlet.html>）、学生便覧（ホームページ「キャンパスライフ≫学生生活」（http://www.t-bunkyo.jp/campuslife/pdf/tebiki_jc.pdf））

(概要)

総合文化学科

総合文化学科の教育目標に掲げる知識・技能・態度が身につくように、基礎必修科目、コア科目、共通科目、発展必修科目、発展応用科目の5領域でカリキュラムを編成し、講義、演習の科目を配置します。

教育内容

1. 基礎科目では、汎用的能力・社会人としての基礎的能力を身につけるため、必修12単位の修得を卒業要件として、「アカデミックスキル」「基礎学力」「キャリア」「メディアリテラシー」「総合」「リサーチ入門」の各科目を配置します。
2. コア科目では、学問の方法を身につけ、歴史と文化を踏まえて人間や社会の出来事を総合的に理解し説明できるようになるため、「ことばとコミュニケーション」「現代と情報メディア」「文化の多様性」の各科目を設け、選択必修4単位以上、「関連」科目から選択必修6単位以上の修得を卒業要件として科目を配置します。
3. 共通科目では、実務遂行能力を身につけ、知識や技術をもとにコミュニケーション能力を高めるため、「教養」「語学」「情報」「医療秘書士」「図書館司書」の各科目を配置します。
4. 発展必修科目では、コア科目の3系統における学修と連動しつつ文化や社会の課題を分析・考察し自己の問題として課題解決への方向性を示すことができるようになるため、「卒業研究」必修4単位を配置します。
5. 発展応用科目では、汎用的能力・社会人としての基礎的能力、学問の方法、実務遂行能力・コミュニケーション能力をさらに高めるために、「ハイレベル」科目を配置します。

教育方法

1. 基礎的な知識の修得と活用を多様な授業のなかで繰り返し行い、実践的な力を身に付けます。
2. グループワークを通して、課題解決のためのコミュニケーション能力を養います。
3. 身近な話題を提示することで、課題に気付き、答えを考え、行動に結び付ける態度を養います。特に、卒業研究において、自ら課題を発見し、仮説を立て、論証する、論理的思考力を養います。
4. チーム・ティーチングによって、教員が連携し学生を複数の視点からとらえることで、一人一人の持つ特性を把握し、それぞれに合った成長を促します。

教育評価

1. 各科目では、シラバスに示した「達成目標・到達目標」「単位認定の要件」「単位の認定方法及び割合」を基に、担当教員が100点満点の数量的評価を行います。
2. 各セメスター終了後に、履修状況とGPA評価による学修成果の査定を行います。
3. 2年間の学修成果を、学業成績を集約した卒業判定と、資格取得によって数量的に測定し、学科でまとめる卒業研究の要旨集及び卒業研究の成果発表会において質的に測定します。

子ども学科

カリキュラム・ポリシーとは、東北文教大学の教育内容とその配列の方針をまとめたものです。学生が入学から卒業までに何をどのように学ぶのか、その計画が示されています。

子ども学科の教育目標に掲げる知識・技能・態度が身につくよう、「教養科目」と「専門科目」の2つの科目群を編成し、講義・演習・実習の科目を配置します。

教育内容

1. 教養科目では、人間性と社会性を支える基礎的な教養と学習方法の修得を目的とし、生涯にわたる研鑽の基礎となる科目を配し、必修4単位を含む8単位以上の修得を卒業要件とします。
 2. 専門科目では、総合的実践力を養うために、「保育の本質・目的」「保育の対象の理解」「保育の内容と方法」「保育展開のための知識・技術」「保育実践」の各区分に科目を配置し、必修9単位を含む19単位以上の修得を卒業要件とします。
- ①「保育の本質・目的」では、保育・教育の本質を理解するための科目を配置します。

- ②「保育の対象の理解」では、保育の対象を多面的に捉えるための科目を配置します。
 - ③「保育の内容と方法」では、保育内容を理解し、相互に関連付けながら保育の方法を修得する科目を配置します。
 - ④「保育展開のための知識・技術」では、子どもの心身の育ちを支えるために必要な専門知識・技術を養うための科目を配置します。
 - ⑤「保育実践」では、保育を総合的に計画・実践するための科目を配置します。
3. 卒業研究では、それまでの教育内容の総合化として、自ら問題を発見し、解決するための科目を配置し、2単位の修得を卒業要件とします。

教育方法

1. 履修モデルなどを通して、希望進路や興味・関心、理解度に応じた履修ができるようにします。
2. 講義・演習の学修進度に応じた実習科目を配置し、実習の事前事後指導科目をすべての学期に配置することで、講義・演習と実習を密接に関連付けた学修ができるようにします。
3. 保育内容関係科目・実習事前指導科目を中心に、チーム・ティーチングを多く取り入れ、多角的な視野を身につけられるようにします。
4. グループワークや演習を多く取り入れ、学生が主体的に学修できるようにします。また、課題解決のためのコミュニケーション力を身につけられるようにします。

教育評価

1. 各科目では、シラバスに示した「達成目標・到達目標」「単位認定の要件」「単位の認定方法及び割合」を基に、担当教員が100点満点の数量的評価を行います。
2. 学科では、各セメスター終了後に、履修状況とGPA評価による学修成果の査定を行います。
3. 2年間の学習成果を、学業成果を集約した卒業判定と、資格取得によって数量的に測定し、学科でまとめる卒業研究の要旨集および卒業研究の成果発表会において質的に測定します。
4. 幼稚園教諭二種免許状取得希望者に関しては、自己課題の明確化等につながるように、教職に関する科目毎の履修カルテ（授業の達成目標・到達目標に関する自己評価とそれに対する担当教員の助言）を作成します。

人間福祉学科

カリキュラム・ポリシーとは、東北文教大学の教育内容とその配列の方針をまとめたものです。学生が入学から卒業までに何をどのように学ぶのか、その計画が示されています。人間福祉学科の教育目標に掲げる知識・技能・態度が身につくよう、人間福祉基盤教育科目と介護福祉専門教育科目の2領域で編成し、講義・演習・実習の科目を適切に配置します。

教育内容

1. 人間福祉基盤教育科目：「基礎科目」と「発展科目」で編成しています。「基礎科目」は必修3科目を含む5単位以上の修得を卒業要件とします。「発展科目」は必修4科目を含む5単位以上の修得を卒業要件とします。
 1. 基礎科目：初年次教育として文章作成や芸術を通じた表現力を育成するための科目と、英語、文化、精神保健、スポーツに関する科目を配置します。
 2. 発展科目：地域の人々がより豊かな生活を送ることができるよう、実践的な地域活動や余暇活動の科目を配置します。また、それまでの教育内容の統合化として、専門領域の課題解決に取り組む卒業研究を必修科目として配置します。
2. 介護福祉専門教育科目：介護福祉専門領域のキャリア教育に基づく「人間と社会」「介護」「こころとからだのしくみ」「医療的ケア」で編成しています。「人間と社会」は必修5科目を含む14単位以上の修得を卒業要件とします。「介護」は選択必修10単位以上の修得を卒業要件とします。「こころとからだのしくみ」は選択必修8単位以上の修得を卒業要件とします。
 1. 人間と社会：介護を必要とする人に対する全人的な理解や尊厳の保持、社会福祉

制度に関する科目を配置します。

2. 介護：人間の幸せと社会のあり方を幅広く捉え、「尊厳の保持」「自立支援」を踏まえて、あらゆる介護場面で活用できる基本的な介護の知識・技術を修得する科目を配置します。
3. こととからだのしくみ：介護実践に必要な、人間の成長と発達ならびに障がいの医学的側面に関することとからだのしくみを理解する科目を配置します。
4. 医療的ケア：医療職との連携のもとで医療的ケアを安全・適切に実践するために必要な知識・技術・態度を修得する科目を配置します。

教育方法

1. 学生が主体的に授業に参加し、学生間の協働により課題を解決する力を養うために、グループワークやディスカッション、体験学習等の能動的な教育方法を取り入れます。
2. 履修モデルやカリキュラムマップ等を通し、講義・演習の学習進度に応じた実習科目を配置し、各担当教員による学生の個別性に応じた学習支援をします。
3. 地域社会の人との関わりを通じた教育方法を取り入れ、学生自ら考え学ぶことができるような地域との連携体制を構築します。

教育評価

1. 各科目では、シラバスに示した「達成目標・到達目標」「単位認定の要件」「単位の認定方法及び割合」を基に、担当教員が100点満点の数量的評価を行います。
2. 学科では、各セメスター（学期）終了後に、履修状況とGPA評価による学修成果の査定を行います。
3. 2年間の学修成果を、学業成績を集約した卒業判定と、資格取得によって数量的に測定し、学科でまとめる卒業研究の要旨集及び卒業研究の成果発表会において質的に測定します。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページ（大学紹介≫情報公開≫4. 上記以外の情報≫ディプロマ・ポリシー/カリキュラム・ポリシー/アドミッション・ポリシー）(<http://www.t-bunkyo.jp/aboutus/disclosure/>)、大学案内（ホームページ「デジタルパンフレット」）(<http://www.t-bunkyo.jp/request/digital-pamphlet.html>)、募集要項（入試広報センターにて配付））

（概要）

総合文化学科

育成したい人材

東北文教大学は、「敬・愛・信」の建学の精神に基づく教育を通して、人間性豊かな、社会に貢献できる実践的な人間を育成したいと考えています。

短期大学部は、各学科が学修の成果として求める、知識・技能・態度を身につけ、地域、社会で実践することができる人材を育成したいと考えています。

総合文化学科は、社会人としての基礎的能力を活かし、地域に貢献し、また、自らの人生を自律的に選択し、社会を生き抜いていくことのできる人材を育成したいと考えています。

求める学生像

総合文化学科では、以下の知識・学力・態度、意欲が備わった学生を求めます。

1. 自分と他人との関わりや社会のあり方などに興味と関心を持ち、自分の生き方を考える力を身につけようとする態度が備わっている。
2. 人間や社会について探究するための具体的方法を学ぶ基礎的知識・学力を有する。
3. 実社会に役立つ能力を身につけたいという意欲がある。
4. 人間や社会がかかえる課題について、積極的に考えてみようという態度が備わっている。

入学選抜の基本方針

総合文化学科では、本学科の求める学生像に記された要件を備えた学生を適正に受け入れるために、推薦入試、試験入試（一般試験入試・大学入試センター試験利用入試）、特別入試の3つの方法で選抜を行います。

1. 推薦入試では、自分の生き方や社会の課題に応えられる能力を身につけようとする

度・意欲のある学生を受け入れるために、面接を課します。

2. 試験入試（一般試験入試〔前期〕・大学入試センター試験利用入試）では、学科の学修に主体的に取り組める基礎的知識・学力を持った学生を受け入れるために、国語と英語を課します。試験入試（一般試験入試〔後期〕）では、学科の学修に主体的に取り組める基礎的知識・学力と理解力、表現力を持った学生を受け入れるために、国語と面接を課します。
3. 特別入試では、社会人としての経験を持つ人には、学科の学修に取り組める理解力、表現力を持った学生を受け入れるために、作文と面接を課します。また、外国人留学生として学修したいという人には、学科の学修に主体的に取り組める日本語能力と理解力、表現力を持った学生を受け入れるために、日本語と面接を課します。

子ども学科

育成したい人材

東北文教大学は、「敬・愛・信」の建学の精神に基づく教育を通して、人間性豊かな、社会に貢献できる実践的な人間を育成したいと考えています。

短期大学部は、各学科が学修の成果として求める、知識・技能・態度を身につけ、地域、社会で実践することができる人材を育成したいと考えています。

子ども学科では、豊かな人間性と社会性を兼ね備えた、保育・教育における総合的実践力を有する人材を育成したいと考えています。

求める学生像

子ども学科では、以下の目的意識、知識・学力、態度が備わった学生を求めます。

1. 本学科の特色を理解し、明確な勉学目的を有し、自己目標を達成するために意欲的に行動できること
2. 本学科で学ぶための基礎学力があり、思考力と表現力を有していること。
3. 保育者に相応しい人間性と礼儀作法、言葉遣い、生活習慣を身につけており、子ども、おとなを問わずコミュニケーションができること。
4. 広く社会への関心を持ち、問題意識や意見をもつことができること。

入学者選抜の基本方針

子ども学科では、本学科の求める学生像に記された要件を備えた学生を適正に受け入れるために、推薦入試、試験入試（一般試験入試・大学入試センター試験利用入試）、特別入試の3つの方法で選抜を行います。

1. 推薦入試では、明確な勉学目的を持ち、自己目標を達成するために意欲的に行動でき、かつ、保育者に相応しい人間性を持った学生を受け入れるために、面接を課します。
2. 試験入試（一般試験入試〔前期〕・大学入試センター試験利用入試）では、学科の学修に主体的に取り組める基礎的知識・学力を持った学生を受け入れるために、国語と英語を課します。試験入試（一般試験入試〔後期〕）では、学科の学修に主体的に取り組める基礎的知識・学力と理解力、表現力を持った学生を受け入れるために、国語と面接を課します。
3. 特別入試では、社会人としての経験を持つ人には、保育職を理解した上で、学科の学修に取り組める理解力、表現力を持った学生を受け入れるために、作文と面接を課します。また、外国人留学生として学修したいという人には、日本の保育職と免許・資格を理解した上で、学科の学修に主体的に取り組める日本語能力と理解力、表現力を持った学生を受け入れるために、日本語と面接を課します。

人間福祉学科

育成したい人材

東北文教大学は、「敬・愛・信」の建学の精神に基づく教育を通して、人間性豊かな、社会に貢献できる実践的な人間を育成したいと考えています。

短期大学部は、各学科が学修の成果として求める、知識・技能・態度を身につけ、地域、社会で実践することができる人材を育成したいと考えています。

人間福祉学科は、人権を尊重する基本姿勢と、深い人間愛、豊かな人間性を兼ね備えた、介護福祉における基礎的な実践力を有する人材を育成したいと考えています。

求める学生像

人間福祉学科では、以下の知識・技能・態度が備わった学生を求めます。

1. 地域社会における諸問題に広く関心を持ち、介護福祉士資格取得に向けた強い学習意欲を持つ人。
2. 現代社会のかかえている諸問題に広く関心を持ち、自らの意見を述べることができる人。
3. 周囲の人との良好な人間関係を保つためのコミュニケーション能力があり、他者に対する誠実な態度と礼儀のある人。
4. 入学後の修学に必要な基礎学力があり、自己目標を達成するために主体的に学ぼうとする人。

入学者選抜の基本方針

人間福祉学科では、本学科の求める学生像に記された要件を備えた学生を適正に受け入れるために、推薦入試、試験入試（一般試験入試・大学入試センター試験利用入試）、特別入試の3つの方法で選抜を行います。

1. 推薦入試では、介護福祉士を目指す目的意識を持ち、人間性豊かで意欲的な学生を受け入れるために、面接を課します。
2. 試験入試（一般試験入試〔前期〕・大学入試センター試験利用入試）では、学科の学修に主体的に取り組める基礎的知識・学力を持った学生を受け入れるために、国語と英語を課します。試験入試（一般試験入試〔後期〕）では、学科の学修に主体的に取り組める基礎的知識・学力と理解力、表現力を持った学生を受け入れるために、国語と面接を課します。
3. 特別入試では、社会人としての経験や介護福祉士を目指す目的意識を持ち、学科の学修に取り組める理解力、表現力を持った学生を受け入れるために、作文と面接を課します。また、外国人留学生として学修したいという人には、学科の学修に主体的に取り組める日本語能力と理解力、表現力を持った学生を受け入れるために、日本語と面接を課します。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：ホームページにて公開している（大学紹介≫ 学生数・教員数・組織図）
<http://www.t-bunkyo.jp/aboutus/college.html>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	2人	—					2人
総合文化学科	—	5人	5人	1人	人	人	11人
子ども学科	—	5人	1人	7人	人	人	13人
人間福祉学科	—	4人	4人	2人	人	人	10人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長				学長・副学長以外の教員			計
2人				0人			2人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法：本学ホームページにて公開している（大学紹介≫ 情報公開≫ 2. 修学上の情報等≫(1) 教員組織、各教員が有する学位及び業績）（ http://www.t-bunkyo.jp/aboutus/disclosure/ ）					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
FD活動は、「教育開発センター」を中心に、授業改善等各種アンケートの実施や研修会、教育改善活動等を実施している。							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
総合文化学科	60人	44人	73%	120人	100人	83%	人	人
子ども学科	100人	89人	89%	200人	190人	95%	人	人
人間福祉学科	60人	33人	55%	120人	68人	56%	人	人
合計	220人	166人	75%	440人	358人	81%	人	人
(備考)								

b. 卒業生数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
総合文化学科	53人 (100%)	0人 (0%)	46人 (87%)	7人 (13%)
子ども学科	104人 (100%)	1人 (1%)	99人 (95%)	4人 (4%)
人間福祉学科	31人 (100%)	0人 (0%)	30人 (97%)	1人 (3%)
合計	188人 (100%)	1人 (1%)	175人 (93%)	12人 (6%)

(主な進学先・就職先) (任意記載事項)

東北文教大学、東北文教大学附属幼稚園、酒田市立保育園、幼稚園、認定こども園、保育所等
川西町職員、日本郵政、農業協同組合等、老人福祉施設及び介護事業所

(備考)

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
総合文化学科	58人 (100%)	53人 (91.4%)	1人 (1.7%)	4人 (6.9%)	0人 (0%)
子ども学科	110人 (100%)	104人 (94.5%)	1人 (0.9%)	5人 (4.5%)	0人 (0%)
人間福祉学科	34人 (100%)	30人 (88.2%)	2人 (5.9%)	2人 (5.9%)	0人 (0%)
合計	202人 (100%)	187人 (92.6%)	4人 (2.0%)	11人 (5.4%)	0人 (0%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要)</p> <p>全学組織である教務委員会にシラバス検討・作成小委員会を設け、シラバス作成要領案を策定している。策定に当たっては、シラバスの各項目の検討や特に注意すべき留意点等について協議し、教務委員会に諮った上で作成要領を確定している。確定した作成要領は、次年度の開講科目一覧を提案する教授会において周知し、シラバス作成を開始する。また、教授会終了後に FSD 研修を開催し、シラバス作成の変更点や作成上の特に注意すべき留意点等、作成要領について詳しく説明を行っている。非常勤講師については、個別に対応している。</p> <p>シラバスの記載項目は、「科目のねらい」「授業の概要」「達成目標・到達目標」「単位認定の要件」「単位の認定方法及び割合」「授業計画（項目、内容）」「時間外学修」「課題に対するフィードバック」「使用テキスト・教材」「参考文献」「連絡先」としている。</p> <p>授業担当者から提出されたシラバスについては、シラバス検討・作成小委員会と学務課職員が一体となり、シラバスの記載内容が適正であるかをチェックしている。単なる編集上のチェックのみならず、学科のカリキュラムポリシーに基づいての確認も行い、内容等について、不足・不備等の修正が必要な場合には、委員より教員に連絡し、追加修正等を依頼している。</p> <p>シラバス作成終了後、教務委員会において、検討・作成小委員会より、内容チェック後の課題等の報告とシラバス作成全体の反省点等について報告を行い、次年度への改善に活かしている。</p> <p>完成したシラバスは、前期のオリエンテーション前までにホームページに公開し、オリエンテーション期間内での教務ガイダンスや学生の履修登録に支障のないようにしている。</p> <p>年間の授業については、学科会議でその年度の開講科目について検討し、全学組織である教務委員会に諮った上で、教授会において審議され決定している。</p>
--

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)

単位認定については、履修規程に授業時数の3分の2以上の出席が必要であることを明示するとともに、学修成果の評価については、全授業科目のシラバスに、「科目のねらい」「授業の概要」「達成目標・到達目標」「単位認定の要件」「単位の認定方法及び割合」「授業計画(項目、内容)」「時間外学修」「課題に対するフィードバック」を明示し、100点満点法により厳格に実施している。

学生には、前・後期毎の履修科目について、S(100点～90点)、A(89点～80点)、B(79点～70点)、C(69点～60点)、D(59点以下、不合格)の表記で通知するとともに、学修成果をGPAとして学生に通知し、学修の達成度を意識させている。

GPAの算出は、以下の方法で実施している。本学では、学修成果がより実感できるように、科目のGPの計算には、学修成果の評価に使用した100点満点法による得点をそのまま利用している。

$$GPA = (\text{科目のGP} \times \text{科目の単位数}) \text{の合計} \div \text{総登録科目単位数}$$

$$\text{科目のGP} = (\text{得点} - 55) \div 10$$

GPAを適切に実施するため、GPAの算出には、履修取り消し・履修放棄・履修不履行の科目及び他大学等で取得した単位を含めないこと、不合格・出席不足の科目のGPは0点であること、再履修科目のGPは再履修後のGPを利用すること等を公表している。

また、履修規程に、年間の標準修得単位数、履修登録単位数の上限、履修の順序、進級要件等について明示し、各学期のオリエンテーション、クラスミーティング等でも説明している。

以上のことを踏まえ、カリキュラムで定められた各区分の所定の単位数を含めた、卒業所要単位を修得することにより、総合文化学科は、短期大学士(総合文化学)、子ども学科は、短期大学士(子ども学)、人間福祉学科は、短期大学士(人間福祉学)の学位を授与している。

学部名	学科名	卒業に必要な単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
	総合文化学科	62単位	(有)・無	54単位
	子ども学科	62単位	(有)・無	54単位
	人間福祉学科	62単位	(有)・無	54単位
		単位	有・無	単位
		単位	有・無	単位
GPAの活用状況(任意記載事項)		公表方法: GPA運用要項をホームページで公開している。 (http://www.t-bunkyo.jp/syllabus/jc/)		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法: 学生満足度及び、学修成果をホームページで公開している (http://www.t-bunkyo.jp/aboutus/disclosure/)		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法: 大学案内(ホームページ「デジタルパンフレット」(<http://www.t-bunkyo.jp/request/digital-pamphlet.html>))、学生便覧(ホームページ「キャンパスライフ」学生生活)(http://www.t-bunkyo.jp/campuslife/pdf/tebiki_jc.pdf)、ホームページ(大学紹介「情報公開」1.教育研究上の基礎的な情報「(3)校地・校舎等の施設その他の学生の教育研究環境」(<http://www.t-bunkyo.jp/aboutus/disclosure/>))

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考(任意記載事項)
	総合文化 学科	620,000円	280,000円	(1年次) 287,000円	施設設備整備費：125,000円 教育充実費：142,000円 実験実習費：20,000円
				(2年次) 267,000円	施設設備整備費：125,000円 教育充実費：142,000円
	子ども学 科	620,000円	280,000円	337,000円	施設設備整備費：125,000円 教育充実費：142,000円 実験実習費：70,000円
	人間福祉 学科	620,000円	280,000円	377,000円	施設設備整備費：125,000円 教育充実費：142,000円 実験実習費：110,000円
		円	円	円	
		円	円	円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) 全学年に対し、前期・後期にオリエンテーションを実施し、教務委員を中心に教務ガイダンスを行い、各学年における履修上の注意点等について説明している。また、クラス担任制も導入し、より丁寧な履修指導を行っている。 1年次の必修科目として各学科に「基礎演習」を設け、大学で学ぶための基礎力育成のため、資料の読解、文献探索、各資料の収集方法を習得させている。 学期毎のGPAが、学科で定めた基準値を下回る学生に対しては、クラス担任が面談を行い、段階的に教務委員や保護者も面談に加わり、学習方法の改善等を話し合い、学習意欲の喚起を促すとともに、必要に応じて補習指導等も行っている。 学生の学修相談等に応えるためにオフィスアワーを設け、常駐する時間帯を各研究室入り口に掲示し、学生の相談等に対応している。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) 就職・進学支援について進路支援センターを設けており、センター長は教員が兼務し、専任の事務職員5名が個別相談を主体に対応している。進路支援は、各学科の教員2名の併せて6名の進路委員とクラス担任を含めた個別面談を行い進路支援センターと情報を共有して一貫した指導と支援を行っている。特に、クラス担任の個別面談は進路支援センターと進路委員が連携して計画している進路ガイダンス(毎週実施)の一環として行っている。また、進路支援センターでは、進路資料室に「情報検索用PC、各事業所案内、求人情報・インターンシップ情報、進学先資料等」を自由に閲覧できるよう常時整備している。求人情報、インターンシップ情報は、進路支援センターモバイルサイトにも掲載し情報提供している。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
(概要) 学生の健康管理については、主に保健センターが担っている。メンタルケアやカウンセリングについては、カウンセリングセンターが担当し、必要に応じて保健センターと連携しながら、学科の各担任とともに対応している。保健センターには、専門職員として看護師1名が、カウンセリングセンターには、非常勤カウンセラー3名と、顧問として心療内科医1名を配置し相談に応じている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：ホームページにて公表している（大学紹介≫情報公開）

<http://www.t-bunkyo.jp/aboutus/disclosure/>

(別紙)

※この別紙は、更新確認申請の場合に提出すること。

※以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校名	東北文教大学短期大学部
設置者名	学校法人富澤学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		0人	0人	0人
内 訳	第Ⅰ区分	人	人	
	第Ⅱ区分	人	人	
	第Ⅲ区分	人	人	
家計急変による支援対象者（年間）				0人
合計（年間）				0人
(備考)				

※本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	人	0人	0人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間が標準時間数の5割以下)	人	0人	0人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	人	0人	0人
「警告」の区分に連続して該当	人	0人	0人
計	人	0人	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	人	前半期	0人	後半期	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人

(備考)

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの に限り、認定専攻科を含む。）、 高等専門学校（認定専攻科を含 む。）及び専門学校（修業年限が 2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数 の6割以下 (単位制によらない専門学校に あっては、履修科目の単位時間 数が標準時間数の6割以下)	人	0人	0人
GPA等が下位4分の1	人	0人	0人
出席率が8割以下その他 学修意欲が低い状況	人	0人	0人
計	人	0人	0人

(備考)

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A 4とする。